

## 「昔の写真展」東田川文化記念館

### 「昔の写真展」

期間：4月23日(土)  
～5月8日(日)

会場：ギャラリー藤

東田川文化記念館では、「昔の写真展」が開催されています。明治時代から昭和30年頃の貴重な写真の展示です。期間は4月23日(土)から5月8日(日)までです。

太田榮市さんや早坂清輔さん、鈴木重雄さんら多くの住民から写真が提供されています。あなたの家族の昔の姿に会えるかも。

(写真) 青年会のダンスパーティ、乳幼児表



## ←日本共産党のはてなリーフから⑨



政治を変える  
この道しかない

### 野党共闘

#### 「野党共闘は失敗」は本当？

一部メディアは「共闘は失敗した」などと言っていますが、事実はちがいます。総選挙で野党4党は207小選挙区で一本化し、自民幹部が「大変な脅威だった」「ぎりぎり勝てた」と告白するほど自公政権を追い詰めました。

2021年総選挙—野党共闘の成果

59小選挙区で勝利  
(自民の新旧幹事長が落選)

共闘勢力の246万票増  
比例得票

共闘勢力 42議席増(2017年比)

#### 草の根で広がる「共闘」

この6年、「市民と野党の共闘」は、困難をのりこえ草の根で積み重ねられてきました。「市民と地域でつながり、ブレない共産党がいて、共闘は力を発揮する」(市民連合@mみやぎ共同代表)。これこそ政治を変えるパワーの源泉です。

#### 夏の参院選は「1回裏、のたたかい」

「1回表の総選挙でとられた1点を、1回裏の参院選でとりかえそう」(二見伸明・元公明党副委員長)——岸田政権の9条改憲、戦争する国づくりの暴走を止めるため、「本気の共闘」をさらに強め、参院選での勝利めざし、がんばりましょう。

## 村の四季①

鈴木重雄(94歳・八色木)

### ■年の初め

「白らみゆく、東の空を仰ぎつつ、平穏無事を祈る元旦」しげを

除夜の鐘とともに新しい年が始まる。昨日の続きの今日であるので、さして変わりはないと思うが、元旦の気持ちは新鮮である。

私の子どもの頃、昭和初期は各家の入り口に門松を立て、一家の繁盛と武運長久を願った。門松は昨年伸びた黒松の若枝と、ゆずり葉、孟宗竹の枝を杭に縛り飾る。

元旦の行事は、神仏に供える餅焼きから始まる。元旦だけは男の料理であった。豆殻を焚いて湯を沸かす。こうこうと赤くなっている灰を囲炉裏の側に寄せ、長方形のゴトクに餅を載せて焼く。豆の枝は火つきがよく、煙も少なく、燃料にしては最適であった。

子ども達も起きて、囲炉裏で暖をとりながら手伝い、そろそろ焼き上がった頃に女たちが起きて来て、餅料理にとりかかる。

餅に入れる具は、各家で独特であったと思ふが、芋がら、こんにやく、油揚げ、または焼き豆腐、塩だしたワラビや、短冊に切った大根を入れる家もあった。

数の少ない材料で、醤油または味噌のスマース汁(醤油醸造過程で出る汁)で出来上がる。御馳走は干し柿の入った大根なます、ハリハリ大根、ゼンマイの煮付け、煮しめなどである。

普通の日は、板の間の台所で食事をするのであるが、元旦だけは茶の間に家族全員で坐ると、改まった気分になる。

家の主が子ども一人ひとりに声をかける。何を言われたが解らないが、何か重みのあるような気がした。

村の年頭会は、午前11時頃からであったと思う。その前に村の近親者や、お寺、タヨ様(神職)に挨拶回りを済ませる。

子ども達は学校で「四方拝賀式」がある。全校生徒が体操場に集まり、正面に神棚がある。教頭先生が奉安殿から教育勅語を運び、壇上で校長先生が燕尾服に白手袋で教育勅語を奏上し、校長先生の挨拶、村長の祝辞、国家「君が代」、歌「一月一日」を斉唱して終わるのである。

村の新年会は一軒から一人の参加が通例である。年頭会に参加できない倅や部屋住め達には、農協などに挨拶に来ていた。日直者は、もらった酒を出して接待していた。

年頭会が終わる頃は、数人が肩を組んで部落会長宅に寄るのが多かった。学校の先生たちは、あっちこっち引っぱり風の接待であった。一日中酔い気を漂わせて元旦は終わる。



# 酒井家の財政難と藩校致道館

酒井家の財政難と藩校致道館について、鶴岡市史編纂委員の本間勝喜氏は、ある会報に次のように書いています。

「財政難を打開するために、享保改革をはじめ何度か財政改革にも取り組まれたが、抜本的な改革にはならなかった。

自分の代になって借財が20万両にものぼったことから、7代藩主酒井忠徳（ただあり）の時に、ようやく寛政改革が行われて、財政は一時赤字から脱したが、10年ほどして再び財政難に陥った。結局幕末・維新时期まで続いた。

幕末に至っては一層の赤字財政となり、町民など領民からの恒常的な借金が行われたし、大坂など上方の豪商からの借財もあった。

19世紀に入り家臣や子弟に対する教育の必要性が痛感させられたことから、藩校致道館が設置されたが、その教育は徂徠学をもって根本とした。

致道館の教育は形式的な詰め込主義ではなく、学ぶ者の個性と自主性を重視するものであったという。

また下着町の富豪葛岡庄右衛門が致道館に入り儒学を修めたというので（新編庄内人名辞典）、本当ならば庶民



にも開かれていた藩校になる。

教育の内容も庶民も受け入れられるものだったはずである。

しかし、致道館教育を受けたはずの庄内藩の藩士たちは基本的に愚民思想を抱いていて、自分たちと庶民は住む世界の違うものと考え

ていたようである。

戊辰戦争では経済的な面はもちろん、農兵・町兵や郷夫などとして領民から多大な恩恵を受けていたわけである。

また直後に会津や磐城への転封問題に際しても多大な経済的な恩恵を受けたのである。それにもかかわらず、間もなく起こったワッパ騒動などに対する旧藩士たちの行動をみると、庶民を蔑視していたことが明らかである。」

## ひと

### 日下部勇一（庄内町榎島）

#### 波瀾（乱）万丈の人生

青山 崇

■共産党員に嫁などやれない！

勇一は、1965年（昭和40）、晴れて日本共産党員になった。

若勢、高校中退など辛い思いをして来た。

労働組合運動、民主青年同盟、わかものサークル、学習運動の中で、人間の生き方、社会のしくみ等を受学した。

戦争のない、平和で働く人々が安心して生活できる社会を目指し、人のために役立つ人間になろうと、入党の決意をした。

筆者も高校生で、『空想より科学へ』などを町の学習会で学び、大学3年に入党した。

勇一は、1966年

的に参加している活動家であった。結婚するなら活動家と聞かされてきた。生家は、鶴岡で茶棚等を作り、刃物の研磨屋も営んでいた。

勇一は或る日、彼女を自宅まで送り、家に入った瞬間、父親から「共産党員に嫁はやれない！」と怒鳴られ、

慌てて靴も履かず素足で帰った記憶が残っている。勇一はシヨックで悩んだが、活動を前に進めることを考え、安保大集会に力を入れた。彼女は、今間製作所で働き、鶴岡市議候補の大川さんの選挙活動に一生懸命だった。



#### 鬼のようだ

21日の夕方6時のテレビを見ていて思わず「鬼」と・俺の口から出たんだ。それは、九州のある高校のサッカー部のコーチが生徒に制裁を加えている模様のようなだったから。

▲イヤー、無抵抗の一方の尻を蹴る事数回、続いて何回か殴っていたようにも。多分これから何回も見られる画面だろうから、コーチも生徒も顔は隠していたが、顔はそのうち出てくるだろうよ。

▲思わず鬼・と言ったんだが、鬼とはナンだ・と思い、広辞苑を開いたんだ。そしたら、色々あったが「鬼のよな人」とあり、その中に無慈悲な人とあったから、これがあのヤツに当てはまると思っただね。

▲これを隠れて撮って投稿した生徒がいたか

ら、俺などが眼にすることが出来たのだが、この画面に、日常茶飯事だ・の声が入っていたように思ったんだが。それが本当なら、異常も異常。鬼に申し訳ないが、正に鬼の仕業と言うもんでしようや。

▲早々に暴力の原因をテレビが教えてくれるだろうが、自分の指導が分かってもらえない腹いせか？だとすれば、その人は指導者の資格がない人だぜ。

▲こちらは、世界中の怒りをかっている鬼の仕業。プーチンが起した侵略戦争だ。世界中の批判をフェイクだと遮り、年中凍ることのない港の地域の獲得に向かった。そして、ここは俺のものだと認める・とウクライナの大統領に言ったぜ。

▲当然・そんな声を認める訳がない。徹底抗戦が発表された。世界の多くから物資も支援されているが、世界大戦の危険性？（石川）